

工種別チェック基準作成

施工プロセス検査を円滑化

各地整へ夏めどに通知へ

国 交 省

姿勢の変換、受注者の理解が求められる。インスペクターはその分野に精通した一級土木施工管理技士と実績を有する者を外部委託するなど客観的な検査体制を重視している。

なお、発注者のプロセスを通じた検査の試行は出来高部分払方式を100件程度実施していく。出来高部分払方式は、前払い金を支払った上で、出来高が一定程度達した以降にさらに支払う仕組み。同省は06年度から対象工事で本格運用しており、今後は状況を把握した後に今後の対策を検討していく。

入札工事に適用する。同省は検査プロセスチェック基準を先行して試行する3億円以上の土木工事に適用。その結果等を発注者責任懇談会設計・施工プロセス専門部会で効果を検証した上で、全てのWTO低入札案件へ施工プロセスチェックを全面試行していく。

国土交通省は、施工プロセス検査を今年度100件の試行に向けて、工種別の検査プロセスチェック基準を作成する。インスペクターによる日々のチェックと主任検査職員が月1回ペースで段階検査する施工プロセスチェックは、3億円以上の土木工事で先行適用する予定であり、工事が集中する7、8月をめぐりに試行のための基準を作り、各地方整備局等へ通知する。品質確保に向けた今回の検査拡大は「発注者、受注者ともに『発想の転換』が普及の鍵を握る」（国交省技術調査課）としており、客観的に冷静に検査する姿勢を重視している。

検査のプロセスチェック基準は、インスペクターが材料検査、出来形検査や施工方法が適正かどうか現場で確認するため、専門性の高い工種別に検査内容を示すもの。インスペクターが実施する日々のプロセスチェックが積み重なれば、07年度に全国で試行する100件は、3億円以上の土木工事（一般土木、橋梁上部、PC）と夏以降のWTO案件の低価格

今回の施工プロセス検査は、昨年4月のダンピング対策に基づき現場にほぼ常駐して日々の立会い検査を行うインスペクターに加え、これまで監督職員が実施している段階確認の一部について、月1度程度で段階検査を行うよう検査頻度、内容を拡充した。

発注者の検査員としての役割が拡大し、受注者に対して客観的でクールな視点で業務に取り組む

発注者の検査員としての役割が拡大し、受注者に対して客観的でクールな視点で業務に取り組む

19年 5月 29日

建設産業新聞